

令和5年度 富山県地域包括ケアシステム推進会議 議事要旨

日時 令和5年7月28日(金)

10時30分～12時

場所 県民会館バンケットホール

1 開会

2 挨拶(富山県地域包括ケアシステム推進会議会長 富山県副知事 蔵堀祐一)

3 議事要旨

(1) 地域包括ケアシステム構築に向けた県の取り組みについて

事務局より説明後、意見交換を行った。

(2) 地域包括ケアシステムにおける各団体の活動報告について

射水市七美社会福祉協議会、富山県生活協同組合連合会、朝日町商工観光課より活動報告後、意見交換を行った。

【各委員からの発言要旨】

(介護予防・社会参加の促進について)

- ・ 地域の活動に参加する方が近年減ってきている。これは70歳を超えても働く方が増えたことや世話人がいなくなってきたことなどの社会の変化によるものと考えている。地域で孤立しないよう、県と協力してeスポーツの普及に取り組んでいるところである。男性が引きこもりがちであるということで、ゲームがよいという発想から、高岡で先行していたものが、今では全県下において活動が行われている。今後さらに効果を上げてくれたらいいと思う。
- ・ 介護を要する方の人口の増加を抑えるのは大切なことであり、本日の活動報告や各委員の団体において、より健康寿命を長くするような活動をしていると感じて大変心強い。
- ・ 介護を必要とする人たちの身近なところに、集いの場などの活動をもっと数多くできれば、本当にきめ細やかな地域包括ケアができるのではないかと感じている。行政や民間企業と連携して、隙間のない支援ができたらよいと思う。
- ・ 高齢世代を対象として、シニアカフェを各15市町村、公民館単位で、年に1・2回ほど開催し、フレイル予防や脳トレ、認知症予防等の取組を行っている。高齢者でそれを世話してくれる人が少ないということなので、そういう方をもう少し募り、今後は1週間に1回でもできるような体制にしていけたらよいと思う。

(地域での見守りについて)

- ・ 介護サービスだけでは見守りが不十分であるため、近所の方からの声かけ等の支援があると大変心強い。介護サービスが入っているからあそこの家はもう行かなくてもいいとは考えず、介護サービスが入っていても今まで通りに声かけ等の支援、見守りをしていただきたい。

- ・ 地域での高齢者と子供の交流はとても素晴らしいことだと思う。今後、学校との連携も社会的に必要ではないかと思うので、その辺も期待したい。

(医療・介護について)

- ・ 介護職員の人材不足により事業所が閉鎖されたり、業務を縮小されたり、利用したい利用者がなかなか利用できないという状況も出てきているため、人材育成や就業者を増加させる方法として、各種の協力や政策が必要だと感じている。
- ・ 地域包括ケアシステムが構築され、サービス提供が充実してきたことは良いが、一方で、本当に適切な医療提供・介護サービスが提供されているのか分からないという部分もあるということ課題として、今後どうやって解決していくかということに取り組む必要があるのではないかと思う。

(認知症にやさしい地域づくりについて)

- ・ 国の方で認知症基本法がようやく全会一致で成立し、これから県も各市町村もこの基本法に沿った、いろんなことを策定するかと思う。福祉というのは申請主義のため、自分から手を挙げないとなかなか手助けできないところがある。本当に今困っている人、隙間にいる方たちをどう繋いでいくのか、声を上げて手を挙げる人のところには何とか援助は行くけれども、声を上げられない人、特に認知症の一人暮らしの方、そして老々介護の人たちのところなど、手が行き届いていない方への支援をどうするか、考えていく必要があると思う。
- ・ 認知症の方の見守りというのは、本人にしてみれば捉え方によっては監視になるということもあるかと思う。何かをやらなければならない担い手の立場からすると、非常に辛いところではあるが、当事者の気持ち、そしてまた、担い手の方の何とか力になりたいという気持ち、そこのバランスがやはり大事だと考えている。認知症にやさしい地域づくりというのは、認知症だけの改革にとどまらず、認知症を切り口に取り組むことによって、すべての県民にとってやさしい地域づくりになっていけるように、広くとらえながら取り組んでいけたらよいと思う。

(ICTの活用について)

- ・ これからもっとICTが進んでいくといったときに、高齢者はICTに慣れていないという話もあるが、やはり進めていくということによって慣れていくということもあると思う。大学と連携している県もあると聞いているので、他県の取組も参考にさせていただければと思う。

(移動支援について)

- ・ 交通手段として、民間が主体となって、地域のコミュニティバスを市町村単位で導入するという事業が最近始まっていると聞いた。ただ、どうしても民間企業であり、運営という部分においては、採算性や持続性が今後どうなるかという不安な部分はあるので、そういったところに、さらに行政の協力があれば、なお持続可能になろうかと思う。
- ・ 朝日町のノッカルという取組みは素晴らしく、今まで入院していた方が自宅で過ごせるようになったとか、大変助かっているという声を聞いている。

- 要介護状態の方の移動には解除が必要な方が多いため、利用するのが難しいという点や、今後、人口減少は進んでいくため、広範囲な地域を網羅していくためには、どうしていくかということも考えていけたらよいと思う。
- 車いすの方の送迎等の問題に対して、県としては障害者割引を1割から少し上げるとか、介護保険の適用のハードルを少し下げるなど、タクシーにおいては介護資格を持ったドライバーさんをたくさん積極的に取り入れるようにするなど、行政と連携して、要介護状態の方も病院や施設、老人クラブの方へ行き、元気な生活できるようにお手伝いしていきたい。